

平成 24 年度国立大学図書館協会海外派遣事業参加報告書

北海道大学附属図書館利用支援課

村木麻衣子

このたび、平成 24 年度国立大学図書館協会海外派遣事業により、アメリカの図書館を訪問し調査研究を行ったことを以下のとおり報告する。

1. 訪問期間

平成 24 年 9 月 20 日（木）～9 月 27 日（木）

2. 訪問先 / 担当者

- (1) California State University, Long Beach, Library / Carol Perruso
- (2) California State University, MERLOT (Chancellor's Office) / Gerald L. Hanley
- (3) California State University, Dominguez Hills, Library / Gerald L. Hanley
- (4) San Francisco State University, Library / Deborah Masters
- (5) Stanford University, Terman Engineering Library / Helen B. Josephine

3. 調査研究内容

「米国大学図書館における電子書籍の動向調査」として、大学図書館における電子書籍の利用調査を主にスタンフォード大学工学図書館にて行い、併せて電子教材利用の推進と図書館との連携についてカリフォルニア州立大学 MERLOT・同大学ロングビーチ校図書館・サンフランシスコ州立大学図書館にて調査した。

4. 調査研究の成果

スタンフォード大学工学図書館においては、元来の資料特性と利用方法、利用者の多くが大学院生であることなど、電子書籍を蔵書構成の中心とする実験的な試み“ブックレス”に適した性格を有していたとのことであった。ブックレス導入後職員は増加しており、電子書籍が即座に人的サービスの不要を意味するものではない模様である。学部教育が中心であるカリフォルニア州立大学においては、リテラシー教育やレファレンス等の学生支援サービスへの注力で図書館の専門性が確立されており、書籍の形態変化による図書館の役割への影響はないとの認識であった。電子書籍の利用については各館のミッション・所蔵資料の分野・利用者の学習深度等の要素によりさまざまな様態を呈しうる現状であるが、各館の性格に合った学習者支援の必要性が浮き彫りとなっている印象を強くした。

電子教材利用についてはカリフォルニア州立大学電子教材コミュニティ MERLOT の担当より、学内図書館との関係はスタート地点であり、特に図書館側が電子教材作成・収集・利用の重要性について理解を始めたとの実情を伺った。電子教材をめぐる状況は国内・海外とも共通しており、学習者にとって利用しやすい電子教材提供のしくみを構築することを目指し、学内関連部署や学外との協力連携を行うことが喫緊の課題であると考えられる。